

■■■ マイノリテールーツと「リベラル」マーケット ■■■

この夏にKFCの研修会に講師としてきてもらった佐野眞一さんが、週刊朝日の記者と書いた「ハシシタ 奴の本性」が大きな問題になりました。

橋本徹大阪市長のルーツを「暴く」記事の中に出てくる被差別部落の問題や親戚の犯罪などが、血による「穢（けが）れ」を吹聴、助長することになると橋本市長が抗議、親会社である朝日新聞記者の取材も拒否、それを受け週刊朝日が謝罪、連載は中止となりました。

表紙に踊る下品な文字も悪意に満ちたタイトルもノンフィクションが踏みとどまるべき自制も失った内容は、橋本市長の指弾に耐えうるものではないものでした。

私は、マイノリティと社会についてできるだけ構造や関係性をとらえ考えます。

佐野さんをKFCが呼ぶきっかけになった「あんぽん」（孫正義ソフトバンク社長伝）は、豚の糞尿にまみれた佐賀県の「朝鮮部落」を出発点にした孫社長をとりまく一族の物語が、孫正義という人間をいかに生み出したのかを昇華させたすばらしい作品です。マイノリティが持つプラスマイナスの強い磁力と向きあいながら文章にしあげていく力量は佐野さんならではのものです。

マイノリティを描く時、境界、峰に立ちながら文章を書かなければ、毒にも薬にもならないものになります。そこに立ち、切開しながら立ち向かわないと現代も見えません。「あんぽん」を描いた成果が、残念なことですが橋本市長のルーツを描いた「ハシシタ奴の本性」を狂わせたのかもしれない。

夏の研修会の後で佐野さんは、「自分は戦後の日本という社会を書きたい。だから戦後のキーワードである『消費』でダイエーの中内功を、『メディア』で正力松太郎という怪物を書いた」と語っていました。

ダイエーは破綻し、メディアを興隆させた野球も巨人中心の形態から変化してきましたが、佐野さんが語った戦後のキーワードである「消費」も「メディア」も隅々まで私たちの生活に浸透しています。

かつてKFCが、ダイエーのOMCカードがベトナム人を拒否した問題を在日コリアンの集まりによく顔を出す朝日新聞記者に相談した時、「自分たちは商業メディアであり朝日の読者に受ける記事を書くのであり、外国人への差別だからと取り上げない」となぜか優越的に語りました。

その意味を考えれば朝日新聞は、読売新聞らとは違う「リベラル」マーケットという市場の消費志向に合わせた商売をしているということです。

また、KFCが関係した朝日新聞の問題では、阪神淡路大震災の後、避難所で暮らす在日コリアン青年が朝日新聞の新聞奨学生に応募したら、国籍を理由に電話で断られた問題がありました。はじめに問題をドキュメンタリーで放送した朝日放送の記者は、私たちが抗議をはじめた直後、夜遅い時間に私の携帯電話にあわてて電話をかけてきて「ドキュメンタリーの内容は誤報でした」と必死に話してきました。「なぜ誤報なのか」と尋ねても要領をえまません。上からの圧力のようでした。その後の朝日新聞の対応もお粗末なものでした。

ビジネスである自覚も責任も乏しいまま報道し批判される側にほぼ立たない「リベラル」メディアは、自省機能が弱いのかもしれません。

「リベラル」マーケットの消費者へ「リベラル」メディアが提供する商品は保守を批判することとかわいそうな「弱者」を消費者の嗜好にあわせてとりあげることに傾きがちです。

「消費」にあわせるだけになった時、「欲望」の暴走も生み出します。

私は、人権や差別の問題が映画やTV、小説、「ノンフィクション」も含めたエンターテインメントの場で取り上げられ、人を感動させたり、憤らせたりしてほしいと願っています。良質なものは表現や描写が時に激しく毒があっても薬にもなり、表現の自由を担保しうらと思うからです。

「ハシシタ 奴の本性」の最後に出自に悩み、こだわり、文学の世界で苦闘した中上健次のことが書かれていますが、彼が「千年の愉楽」等で描きこだわったマイノリティルーツは、歪んだ「リベラル」マーケットで消費されるためのものではないでしょう。

耳ざわりのいいお花畑「多文化共生」で消費されるマイノリティとの関係や「保守」を批判するために持ちだされるマイノリティを忌避する気概がなければ、「リベラル」は、ある種の欲望を満たすマーケットをつくるだけになり、「保守」より偽善的で鼻もちならないものに落ちていくでしょう。

またそうならなければ「リベラル」に関係する人たちは、自分たちの稼ぎの場も失うでしょう。

それはメディアだけの問題でもありません。政治の混迷と金融市場主義で失われた多くの善良な生き方に無責任な発言を続ける多くの学者も評論家もNPOの一部もナチスの台頭を許したワイマール状況の構成員であり、縮小する「リベラル」の状況を作っている当事者なのです。

橋本市長は、「週刊朝日の記事は『血統的に卑しい』という本人の努力では克服できないというナチ的思想を持つものである」と批判しました。本人は自覚していないかもしれませんがそれは「血統的に尊い」ということもないことと同意語でしょう。

生まれながらの卑しいも尊いも人を幸せにする考えではありません。

それでも現実の世界には、出自や自分の努力では克服できないことによって理不尽なことがたくさん起こっています。

私たちは、そのことを消費しない力だけは持たなければいけないはずです。

(理事長 金 宣 吉)

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆KFC研修会「教育ファシリテーター」とは何か

2012年10月の研修会は、「教育ファシリテーターとは何か」という題目で、川中大輔さんの講演でした。

川中さんは、長田のお生まれで、NPO「シチズンシップ共育企画」の代表であり、まちづくりなどで「ファシリテーター」をなさっているとのことでした。

受講者18名は、グループ内の受講者の「ファシリテーターに関する知識レベル」が分散するように人選した4、5名からなるグループを4つ作り、グループごとに円陣を作って座りました。これは、講義の内容にちなんで受講者の自主的な討議への参加を促すために行われた講師の配慮でした。

最初に行ったのは、「ファシリテーターとは何か」を各グループ内で自由に討議をし、その結果を教室全体に発表し、それを講師がまとめてくださる活動でした。要約すると次の通りです。

ファシリテーションは十年ほど前から注目が高まり、日本では比較的新しい考え方である。ファシリテーターとは、グループの参加者一人ひとりの参加を促し、「場」の力を高めるよう、働きかける人を言う。ファシリテーターの活動は、一方向ではなく、グループ員の自主性を尊重して、対話をベースにした関わりである。ファシリテーターは先生ではない。学習者・支援者の双方にヒントを与える人である。ファシリテーターは、中立性を尊重し、グループの自主性をはぐくむ雰囲気づくりをする人である。

特に教育ファシリテーターとは、学習者の意欲と関心を引き出し、学習者の経験や知恵を生かして学びあう環境を作る人である。

次は、「なぜ教育にファシリテーションなのか」講師のお話を聞きました。

なぜ教育にファシリテーションなのかを考えるには、教育には二つのスタイルがあることに目を向ける。一つはタテ型、もう一つはヨコ型。どちらかが優れているわけではない。教育内容によってどちらが適しているかわかってくる。現代社会では、ヨコ型の学びの充実が求められているとのことだった。

	タテ型	ヨコ型
教える側	権威的	相互的
学ぶ側	受動的	能動的
伝達方法	一方的	交流的
学習内容	知識概念	態度価値
学習質	均質的	個別的
効率	短時間多量	長時間少量

第三に質疑・応答の時間がありました。「質疑」は、各グループ内であらかじめ三つ以内の質問に整理しておいて、後刻それを教室全体に発表し、講師がそれに応答してくださいました。「ファシリテーター」という職業は存在するのか？ → 存在するが、それを専門にしている人は少ない。

日本語支援の先生がファシリテーターを兼ねると問題があるか？ → 基本的には問題ないが、先生の性格が権威主義的な場合、問題になることがある。

ファシリテーションの効果は？ → 考える力の向上、いろいろな価値観への対応力向上。「いい雰囲気」とは？ → 学習者が質問しやすく、答えをみんなでつくりあげていく雰囲気。それには、ファシリテーターの「聴く姿勢」が重要。

グループ内の意見が分かれたときのファシリテーターの取るべき対応は？ → 一つの対応は、「誰かに引っ張られていない？」と質問すること。もう一つの対応は、少数派の人に意見を述べる機会を設けること。

最後に、今日の講演で感じたことおよび今日の講演が今後の活動方針に与えた影響を、各人が紙に書き、それをグループ内で発表しあいました。

レポーターも日本語支援ボランティアをしています。グループ活動の活性化が今日のキーワードだな、と思いました。

(ニュース係 操田 誠)

■■■ K F C 外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

◆ KidZania(キッズニア) に行ってきました！

10月23日(火)、子どもがお仕事体験できる施設「キッズニア」に行ってきました。

今回は、キッズニアの「グローバルおともだちナイト」の開催にあたり、KFCのような外国人の子どもの支援活動を行っている団体や外国人学校などがご招待いただき、学習している子どもや日本語教室に参加しているお母さんとその子ども総勢20名で参加させていただきました。

KFCからキッズニアのある甲子園は少し遠いこともあって、他の団体より到着が遅くなり、KFCの子どもはみな「おしごと体験」を1つしかできませんでした。しかし、菌を調べてヤクルトづくりをしたり、自動車修理をしたり、クレーン操作をしたり、救急車でけが人の役をしたり、とそれぞれ楽しい時間を過ごすことができました。

また、今回の企画の一つとして、「おともだちを作ろう！」というのがありました。いろんな人に英語で話しかけて、自己紹介、握手、サインをもらうということをして3人すれば、プレゼントがもらえるというものでした。みな頑張って、スタッフの方や全く見知らぬ外国人の参加者に英語で話しかけて、プレゼントをもらっていました。

子どもたちは普段できない様々な経験をさせていただき、KFCに戻るまで非常に興奮状態でした。

声を掛けてくださったキッズニアのみなさま、当日、参加してくれた支援者の方々、ありがとうございました。 (志岐 良子)

子どもたちの感想

○楽しかったです。もう1回行きたいです。一番楽しかったのは、クレーンでタワーのてっぺんをつけたのです。(K)

○ぼくは、はしごにのぼりました。しゃしんをとってもらいました。ありがとうございました。(Y)

○わたしはキッズニアにいて、すごく楽しかったです。最初は、初めてだったのでどこに行くかまよったけど、ともだちが銀行にいったので、いきました。そこでカードを作りました。最初のおしごとは、菌研究者です。わるい菌、よい菌を調べて、私が調べたのは赤痢菌で、とくちょうは発熱をおこすことで悪い菌と発覚して、へーすごいと思いました。最後にヤクルトをもらいました。(T)

○お金集めとかで楽しめたし、大林組ですごく大きな声とか気持ちよくできたので、個人とかKFCでまた来年行きたいです。(T)

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

9月29日(土)舞子の孫文記念館で月見会が行われました。トップバッターにKFCの神戸秧歌隊が出場するので見に行きました。舞子駅を出て海を見ながら左手に行くとその建物が見えてきます。八角形の楼閣なのですぐ分かります。

昼前から会館の前で小規模なフリーマーケットが開かれていました。KFC帰国者新長田交流会での出店です。日用雑貨は少しずつ売れていましたが、衣類はなかなか買い手がつかないようでした。

2時ごろになると出場者が少しずつ集合。練習でよく会っていると思われるのに、久しぶりの再会のような喜び方でした。帰国者に折り紙を教えているボランティア、よろず相談に関わっている女性など曇天に関わらずぼつぼつ集まってきました。

雨がひどくなりフリーマーケットは片づけ始め、出場者は会館の二階へ着替えに。そして間もなく次に現れたのは目の覚めるような、ピンク・ブルー・グリーン・黄色などの上着とズボン姿でした。赤の長い帯を締めて。ほとんどが女性でしたが、男性は白やブルーの服で金属製の打楽器・吹奏楽器・太鼓で音を奏で始めました。楽器名を尋ねましたが、聞き取れませんでした。彼らは楽器のウォーミングアップを始め、定刻になると女性は二列で円を描き、踊り始めました。踊り手の男性陣も楽しそうに加わっておられました。

多分、踊っている人にはここが日本か中国かという事は関係なく、自分たちの踊りを披露している気分になっているのではないのでしょうか。そんな彼女たちは疲れも見せず、曲がいつまでも続くことを望んでいるようでした。雨はぱらぱら程度でした。

余談ですが、会館の入り口に季節外れの紫の朝顔があり「流転の子」の作者。中国の最後の皇

女愛親覚羅院生が中国に住む父溥傑の庭から持ち帰った種で咲かせた日中交流の朝顔と説明があり、今日のイベントを見守っているようでした。（気賀 倭文子）

■■■ ハナの会 ■■■

◆合同敬老会

今年7月にグループホーム ハナがオープンし「デイサービスの利用者さんと一緒に敬老会を、グループホーム ハナの一階でやったらどうだろう」と、話は早くからありました。

9月の勤務表は8月中旬から作成し始めます。その中でグループホーム ハナの方から「敬老会は9月17日で」という案が出されました。勤務表が出来た段階でデイサービスのスタッフに意向を伺いました。その日は祭日であり、デイサービスにとっては一番体制のきびしい日でした。

（子どもさんをかかえたスタッフは休み希望）

日は過ぎてゆき、私の一存で「17日決行」としました。

当初実行委員を作ったと考えてもいましたが、9月の勤務がスタートしている中ではスタッフの人選、勤務の調整はとてとても困難でした。私がフフさんとボランティアの打ち合わせをし、私の方でも余興を増やすために知人に声をかけました。

9月5日にデイサービスのスタッフと任務分担をし、ここでようやく輪郭が出来上がりました。グループホームに持ち帰り、利用者さんに飾りを作ってもらおうよう日勤者にも依頼しました。

前週の金曜日に隣の民団から椅子、机をお借りしました。日曜日の午後から会場作りをしました。

当日はデイサービスから18名、グループホームから十数名の利用者が一堂に会しました。

一階はスタッフに子どもさんや家族の人でいっぱいになりました。

金理事長の挨拶のあと、厨房で働く趙さんのヴァイオリン演奏で始まり、韓国の歌と舞踊、日本人ボランティアによる親子の歌謡ショー、手品に南京すだれ。会場もアオザイに浴衣姿のスタッフとまさに多様化を相していました。

出来るかなと少々不安だった、ビンゴ大会もスタッフの協力で熱気の中、終えることが出来ました。

行き当たりばったりでしたが、ハナの利用者が一堂に集まっただけでも、大きなエネルギーに包まれていました。来年に乞う期待を。

(施設長 山根 香代子)

◆3ヶ月たったグループホーム ハナ

10月になり、グループホーム ハナも3ヶ月が過ぎました。

右も左も分からないまま7月をスタートし、7月下旬から空室4部屋をどう埋めるかで四苦八苦し、その甲斐あって8月中旬に18室満室。それもつかの間で一人死亡、契約不履行で一人退去と9月にはまた利用者の面接行脚が始まりました。

10月に入って再び18室満室となりました。男性8名、女性10名の構成です。

往診も定着してきましたが、夜間急変による救急搬送も2件体験、入院から死への転機もありました。

8月から朝のみですが合同の申し送りをスタートしました。階は別れていても18人の利用者を全員が知ることは、情報の共有化の面からも大切です。又お互いの階の取り組みを知る事は、介護の質を上げる上で欠かせません。

看護活動でいえば、二人の看護師でオンコール体制をとっていますので、電話はもちろんよくか

かってきます。自転車をこいでいる時も、風呂に入っている時でも、もちろん寝ている時にも。8月から9月は週一ぐらいの頻度で夜間グループホームにかけつけています。9月中旬から少し落ち着いてきました。

8月に歯科の健診を全員受け、9月の22日から歯科往診もスタートしました。

多くの方が訪れて来られます。入居にともなう見学から、家族の訪問、「多文化共生」という理念が珍しい事もあり、マスコミ関係者の訪問インタビューもあります。

建物の回りは陽をさえぎる物がなく、暑い季節の間は散歩もままならなかったのですが、10月に入り、スタッフも業務に慣れてきたのでこれからは、外に出ていく時間も増えていくかと思っています。

スタッフにとっては、3ヶ月は長くてめまぐるしかったと思います。

利用者さんの人柄や特徴もほぼ把握してきました。これからは提供する介護についての質を深めることが課題となっています。

(施設長 山根 香代子)

■■■ 今後の予定 ■■■

■ 中国語による介護保険説明会

11月20日（火） 13:00～15:30

於 神戸市立地域人材支援センター

■ 生活日本語ファシリテーター養成講座

11月17日（土）～12月15日（土）の毎週土曜日

全5回 14:00～17:00

於 アスタくにつか4号館3F

■ CAP（キャップ＝子どもへの暴力防止）保護者向けワークショップ

12月16日（日） 於 KFC事務所

■ CAP（キャップ＝子どもへの暴力防止）子ども向けワークショップ

12月26日（水） 於 KFC事務所

■ 12月研修会

12月8日（土） 13:30～15:30

「中国帰国者から話を聞く」 於 KFC事務所